

中 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究方法	4
	1 研究構想図	4
	2 研究の方法	5
V	研究の内容	6
	<指導事例：第1学年>	6
	<指導事例：第2学年>	12
	<指導事例：第3学年>	18
VI	研究のまとめ	24

研究主題

人との交流を通して主体的に学ぶことができる「聞き手」を 育む指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第 3 学年対象）では、「互いの発言を検討して自分の考えを広げること」に関する設問についての正答率が 62.6%であり、課題があると報告されている。平成 29 年度と同調査においては、「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すこと」に課題があることが指摘されている。

また「平成 28 年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』（東京都教育委員会）の国語に関する調査（中学校第 2 学年対象）の結果分析において、「読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、文章の中心となる内容について考えをまとめることができる」ことを見る設問の正答率が 45.5%と他の問題と比べて低かった。さらに同報告書においては、「互いの考えを交流させてものの見方や考え方を広げたり深めたりすること」に課題があるという分析を行っている。平成 29 年度と同調査においては「話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができるかを見る問題」の正答率が 44.9%となっており、課題が指摘されている（平成 29 年度児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書）。同報告書においては「『正確に聞き取る力』は身に付いている。その一方で『聞きながら考えをまとめる力』、『聞いて評価する力』に課題がある。その結果、話し合い活動が深まったり広がったりしていかない。」と分析している。

これらの調査結果の分析から、主体的に話を聞き、情報を理解したり解釈したりし、自分の考えをまとめることに課題がある生徒の実態が見えてくる。

学習指導要領では、話の内容を正確に聞き取るだけでなく、「自分の考えとの共通点や相違点を整理すること」（第 1 学年）、「自分の考えと比較すること」（第 2 学年）、「内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること」（第 3 学年）までを含めて「聞くこと」の指導事項としている。話を聞く際に話の内容を正確に聞き取ることは重要である。しかし、それだけでなく、話を聞いて自分の考えをもったり、相手の考えと自分の考えとを比較したりすることで、自分のものの見方や考え方を深めることが求められているのである。

現在、各中学校では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」それぞれの領域の指導において考えを広げたり深めたりする学習活動として、話し合いを設定している。しかし、上記の調査結果からは、話し合いが効果的な学習活動となるための聞く力の指導について、十分な成果が得られていないことが分かる。

話し合いにおいて、互いの考えを交流させてものの見方や考え方を広げたり深めたりするためには、ねらいや目的に応じて話し合いを進めていくことが大切である。そのためには、相手から情報を引き出したり、聞いたことを基に自分の考えをまとめたりすることができるようになる必要がある。つまり、「聞き手」の指導を充実させることが、話し合いの充実に向けた大きな課題となる。

「聞き手」の指導を着実にを行うことで、相手から情報を引き出したり、聞いたことを基に自分の考えをまとめたりすることができるようになる。そして、各領域の学習における人との交流が充実し、主体的に学び合い高め合うことができるようになる。さらには、人との交流を通して互いに学び合えることの実感が、主体的に学びに向かう力を更に向上させるはずである。

これらのことを踏まえ、本研究では、研究主題を「人との交流を通して主体的に学ぶことができる『聞き手』を育む指導の工夫」とし、「話すこと・聞くこと」の指導事項の中で、充実した話し合いができる聞き手の指導に焦点を当てて研究を行うこととした。

Ⅱ 研究の視点

話し合いの目的や意図を意識し、積極的に話を聞き、聞いたことを基に自分のものの見方や考え方を深めることができる聞き手を本研究では「人との交流を通して主体的に学ぶことができる『聞き手』」と呼ぶ。「人との交流を通して主体的に学ぶことができる『聞き手』」となるために必要な力を生徒一人一人に身に付けさせるための効果的な指導の工夫を示すことが、本研究の目指すところである。

学習指導要領では、「話し合うこと」についての指導事項の中に「自分の考えをまとめること」（第1学年）、「自分の考えを広げること」（第2学年）、「互いの考えを生かし合うこと」（第3学年）という内容が示されている。話し合いでは話す力と聞く力を総合的に生かすことが求められる。「人との交流を通して主体的に学ぶことができる『聞き手』」となることは、話し合いの中で話を聞き、また自分も話をしながら、自分の考えをまとめ、広げ、互いの考えを生かし合うことができるようになることでもある。

そこで、本研究において各学年の生徒に身に付けさせたい力を以下のように設定した。

第1学年……必要に応じて効果的に質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する力

第2学年……他者の考えを的確に聞き、相手の意見を踏まえて、自分の考えを広げる力

第3学年……話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、自分のものの見方や考え方を深める力

話を聞いて自分の考えとの共通点や相違点をワークシート等に整理して記録することができたとしても、「人との交流を通して主体的に学ぶことができる『聞き手』」となったとは言えない。相手の考えと自分の考えとを比較することなどを通して、自分のものの見方や考え方を深めることができるようになることが重要である。

そのことを踏まえ、主題に迫る具体的な取組として、

- ① 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫
- ② 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

の2点について検討し、各学年の発達段階等に応じた単元を設定し、検証していく。

Ⅲ 研究の仮説

本研究は、「必要に応じて効果的に質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する力」、「他者の考えを的確に聞き、相手の意見を踏まえて、自分の考えを広げる力」、「話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、自分のものの見方や考え方を深める力」を身に付けさせ、「人との交流を通して主体的に学ぶことができる『聞き手』」を育てるための具体的な手だてを明らかにすることをねらいとしている。

その前提として、前章に挙げた①、②の工夫について検討を行った。

まず、①に挙げた「相手の意図を的確に捉える力を育む」ことについてである。相手の意図することを的確に捉えるためには、相手の考えについて理解が不十分な点を認識できなければならない。その上で、相手の考えに関して質問したり確認したりすることが必要である。そこで、授業の中に相手の考えがどのようなものであるかを整理する場面を設定することとした。

次に、②に挙げた「聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力」を育むことについてである。聞き手が自分の考えを深めるためには、相手の考えを効果的に引き出すことが必要である。相手の意見とその理由や根拠について理解を深めることで、自分の考えを支える理由や根拠を増やしたり、相手の意見に納得してそれまでとは違う考えに移行したりすることができるからである。そこで、授業の中に理由や根拠を引き出す発言ができていたかどうかを客観的に振り返る場面を設定するようにした。聞き手としての立場や役割を意識できていたかどうかを客観的に振り返るためには、自分以外の他者による評価が有効である。話の聞き方はどうであったか、質問の内容やタイミングは的確であったかなどの視点から評価し合うことで、生徒は聞き手としての立場や役割を更に意識することができるはずである。

このような検討を経て、本研究では「聞き手としての立場や役割を明確にした話し合い活動」を意図的・計画的に取り入れて各学年の単元を設定することとした。

聞き手としての立場や役割を意識することで、注意して聞くべきポイントが明確になり、自分のものの見方や考え方を深めることができるようになる。

さらに、話し合い後に自分の考えが深まったことを実感することで、生徒自身が自分の変容に気付くことができ、主体的に学ぶことにつなげることができる。

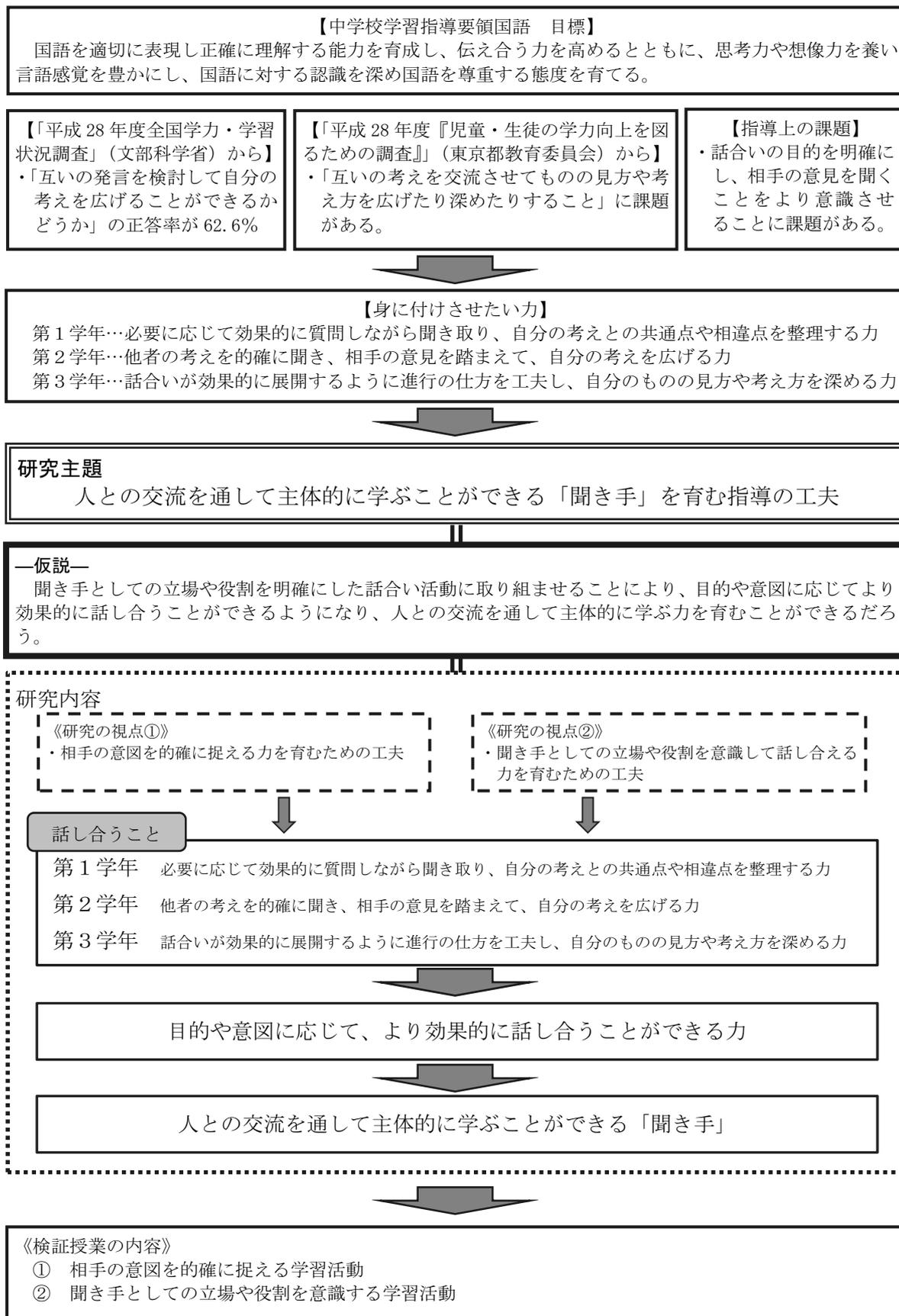
以上のことから、本研究では、「話すこと・聞くこと」の指導において、聞き手としての立場や役割を明確にした話し合い活動に意図的・計画的に取り組ませることで、「人との交流を通して主体的に学ぶことができる『聞き手』」を育てることができるのではないかと考え、次のように研究の仮説を設定した。

－仮説－

聞き手としての立場や役割を明確にした話し合い活動に取り組ませることにより、目的や意図に応じてより効果的に話し合うことができるようになり、人との交流を通して主体的に学ぶ力を育むことができるだろう。

IV 研究方法

1 研究構想図



2 研究の方法

第1学年 小学生に学校の魅力を伝えるキャッチフレーズを考えよう

～質問をすることで、相手の伝えたいことに迫ろう～

伝え合い

- 学校の魅力を考え、学校のキャッチフレーズをつくる。
- 相手の考えを引き出すための質問、相手の考えを確かめるための質問をしながら相手がキャッチフレーズに込めた考えを理解する。【相手の意図を的確に捉えるための学習活動】
- 自分の考えた学校の魅力と友達が考えた学校の魅力の共通点や相違点を整理し、学校の魅力についての考えをまとめる。
- 伝え合いにおいて、相手の考えをより詳しく理解するために大切な点について話し合う。【聞き手としての立場や役割を意識する学習活動】

第2学年 海外の中学生に日本の魅力を紹介しよう

～異なる立場や考えを尊重して話し合おう～

パネルディスカッション

- テーマ「海外の中学生に日本のよさを紹介するとしたら何を取り上げるのがよいか。」について、自分の考えをもつ。
- パネルディスカッションを行い、多様な立場の根拠を聞き、自分の考えを広げる。
【相手の意図を的確に捉えるための学習活動】
- パネルディスカッションを振り返り、改めて他の考えと自分の考えとを比較し、共通点や相違点を捉えて、自分の考えを広げることにつながった発言を考える。
【聞き手としての立場や役割を意識する学習活動】
- パネルディスカッションを振り返り多様な考えを比較・検討し、自分の考えをまとめる。

第3学年 社会の課題について討論をしよう

～目的や意図に応じて話し合う～

討論

- 本、テレビ等の情報を基にどのような社会的な問題があるか捉え、課題を見付ける。
- 効果的に討論が展開するように考えて討論を行う。
【相手の意図を的確に捉えるための学習活動】
- 討論が効果的に展開していたか、記録を基に話し合う。
【聞き手としての立場や役割を意識する学習活動】
- 相手の立場とその理由を意識して討論を行う。
【相手の意図を的確に捉えるための学習活動】
- 討論を通して深まった自分の考えをまとめる。

V 研究の内容

<指導事例 1：第 1 学年> 必要に応じて効果的に質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する力を育成する指導

1 単元名 小学生に学校の魅力を伝えるキャッチフレーズを考えよう
～質問をすることで、相手の伝えたいことに迫ろう～

2 単元の目標

学校の魅力が伝わるキャッチフレーズを考え、自分の考えと相手の考えとの共通点や相違点を整理しながら話を聞き、自分の考えをまとめることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 単元の目標を理解し、身に付けるべき力を着実に身に付けるために、主体的に学習に取り組んでいる。

【話すこと・聞くこと】

- ・ キャッチフレーズに込めた相手の考えを必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えをまとめている。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・ 事象や行為などを表す多様な語句について理解し、必要に応じて使っている。

4 研究の視点

(1) 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

相手の考えを引き出したり、確認したりさせるために質問の文型を示し、目的に沿った質問を考えることにつなげさせる。

(2) 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

質問を記録に残させ、聞き手としてどうであったかを振り返らせる活動に取り組みさせることで、人との交流を通して主体的に学ぶ力の育成につなげる。

5 主な学習活動

(1) 単元の指導計画（全 3 時間）

時	○学習活動	・指導上の留意点
第 1 時	○学校の魅力を伝えるキャッチフレーズを考える。	・ 新入生に配布するパンフレットに掲載する「学校の魅力を伝えるキャッチフレーズ」を考えることが目的であることを伝える。
第 2 時	○互いのキャッチフレーズに対して質問し合い、相手の考えを引き出す。	・ 相手の考えを引き出したり、確かめたりする質問を考えさせる。
第 3 時	○相手の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理する。 ○質問の効果について考える。	・ 質問することで、他者の考えについての理解が深まり、自分の考えとの共通点や相違点が整理しやすくなることに気付かせる。

(2) 指導の展開

第1時

(ア) 本時の目標

- ・ キャッチフレーズをつくるために、学校の魅力について自分の考えをまとめる。
- ・ 相手のキャッチフレーズについて自分の考えをもつ。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<p>○新生生に配布するパンフレットに掲載するために学校の魅力を伝えるキャッチフレーズを考えることを知る。</p> <p>○キャッチフレーズに適した言葉の条件を考える。</p> <p>○学校の日常の様子、行事、活動等から学校の魅力を挙げる。</p> <p>○学校の魅力について自分の考えをまとめ、キャッチフレーズを考える。</p> <p>○二人一組となり、自分が考えたキャッチフレーズを相手に伝える。</p> <p>○相手のキャッチフレーズを聞き、自分の解釈を考える。</p>	<p>・ キャッチフレーズに込めた相手の考えを聞き、聞いたことを基に自分の考えをまとめ、自分のキャッチフレーズをよりよいものにするを説明し、学習に見通しをもたせる。</p> <p>・ 質問をすることにより、キャッチフレーズに込めた相手の考えをより深く理解できることに気付かせる。</p> <p>・ キャッチフレーズをつくる目的や対象を意識させる。</p> <p>・ 短く、具体的過ぎない言葉が適していることを理解させる。</p> <p>・ グループでバズセッションを行わせ、様々な学校の魅力を挙げさせる。</p> <p>・ 学校の日常の様子、行事、活動等を基に学校の魅力についての自分の考えをまとめさせる。</p> <p>・ キャッチフレーズに込めた自分の考えは伝えさせずに、キャッチフレーズだけを相手に伝えさせる。</p> <p>・ 相手のキャッチフレーズは学校のどのような魅力を表しているのか、また、どのような場面や様子から考えた魅力であるのか、考えさせてワークシートにまとめさせる。</p>	<p>○事象や行為等を表す多様な語句を必要に応じて使い、キャッチフレーズをつくっている。 〔ワークシート〕</p> <p>○相手のキャッチフレーズが、どのような学校の魅力を表わしているのか、また、どのような場面や様子から考えた魅力であるのかを考えている。 〔観察・ワークシート〕</p>

第2時

(ア) 本時の目標

- ・ 相手が作ったキャッチフレーズについて、伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりする質問を考える。
- ・ 質問をして、キャッチフレーズに込められた考えを聞き取り、再度相手のキャッチフレーズについて自分の考えをまとめる。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <p>○相手のキャッチフレーズに対する質問を考える。</p>	<p>・ 質問を用いて、相手がキャッチフレーズに込めた思いをより深く理解するという本時の課題を理解させる。</p> <p>・ 質問の視点を示す。</p>	<p>○相手がつくったキャッチフレーズについて、伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりする質問を考えている。</p>
<p>相手の考えを詳しく知るための質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5W1Hを使った質問 ・ 「～について具体的に教えてください。」 ・ 「例えばどのような○○ですか。」 <p>相手の考えを確かめるための質問</p> <p>「つまり～ということですか。」</p> <p>相手と自分の考えの共通点や相違点を明らかにするため質問</p> <p>「私は～と考えますがあなたはどうですか。」</p>		<p>〔観察・ワークシート〕</p>
<p>○質問を付箋に書き、相手に渡す。</p> <p>○渡された質問についての答えを考える。</p> <p>○交互に質疑応答を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>相手の意図を的確に捉えるための学習活動</p> </div>	<p>・ 質問は一つずつ付箋に書かせ、相手に渡させる。</p> <p>・ 回答を吟味させるため、その場ですぐ答えるのではなく、時間を取って回答を考えさせる。</p> <p>・ 質問の回答をワークシートに記入させる。</p>	<p>○必要に応じて質問しながら聞き取ろうとしている。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p>
<p>○質疑応答後に再度、相手がキャッチフレーズに込めた思いをまとめる。</p>	<p>・ 質問をして聞き取った内容を踏まえて、キャッチフレーズに込めた相手の思いをワークシートに書かせる。</p>	<p>○必要に応じて質問をしながら聞き取り、相手が伝えたいことについて確かめたり、足りない情報を聞き出したりしている。</p> <p>〔ワークシート〕</p>

第3時

(1) 本時の目標

- ・ 自分の考えと相手の考えとの共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめる。
- ・ 質問の効果について理解し、よりよい聞き方について自分の考えをもつ。

(2) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <p>○相手の考えと自分の考えとを比較し、共通点や相違点を整理し、考えをまとめる。</p> <p>○話し合いにおいて、相手の考えについて理解を深めるために大切な点について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>聞き手としての立場や役割を意識する学習活動</p> </div>	<p>・相手のキャッチフレーズについての自分の考えが質問の前と後とで変化したか、どう変化したかを整理し、そこから質問の効果を考えるという学習課題を理解させる。</p> <p>・①同じところ ②違っていたところに色分けして線を引かせる。</p> <p>・比較した結果を分析させる。</p> <p>・質問することで、他者の考えについての理解が深まり、自分の考えとの共通点や相違点が整理しやすくなることに気付かせる。</p> <p>・相手の伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするためにどのような質問が効果的だったかを考えさせる。</p> <p>・今回学習したことが、今後どのような場面で生かせるかを考えさせる。</p>	<p>○必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理している。 〔観察・ワークシート〕</p> <p>○必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理している。 〔ワークシート〕</p> <p>○質問の効果について自分なりの考えをもつことができている。 〔ワークシート〕</p>

6 検証授業の成果と課題

(1) 成果

ア 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

第1学年では質問の型を示し、生徒が相手は学校のどのような場面に学校の魅力を感じているのかを詳しく理解することができるようにした。

生徒は質問を用いたことで、相手の考えを確かめたり、より詳しく理解したりすることができ、自分のキャッチフレーズに込めた考えをさらに深めることができた。

イ 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

質問を付箋に書いたり、質問への答えをワークシートに記入したりして記録に残させた。そして、自分から相手への質問が効果的であったかを記録を活用しながら振り返らせたことで、生徒はどのような質問が自分の考えを深めるために有効であったかを考えることができた。

また、実際に質問によるやり取りを行う前に、質問の答えを考えワークシートに記録する活動を入れたことで、相手の質問の意図を捉え、的確に答えることにつなげることができた。

(2) 課題

ア 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

型を示すことで質問自体を考えることはできたが、その質問が相手から情報を引き出し、自分の考えとの共通点・相違点を整理するのに有効であったかどうかの検証までつなげられない生徒がいた。また、確認の質問だけを考え、相手からの答えが「はい」で終わってしまったり、質問の答えが全て似たような内容であったりする場面も見られた。質問の目的を明確に意識できなかったことが原因と考えられる。

実際の話合いの中で質問をする場面でも、質問の目的を意識させることが重要であり、そのことが交流活動が目的に沿って効果的に展開することにつながると考えられる。

イ 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

本検証授業では「話合いに必要な技術を身に付ける」という目的があったため丁寧に記録をとったが、実際の話合いの中で同様の記録をとることは難しい。話の流れを適切にメモする方法など、話合いを目的に沿って進めるための技能を生徒の実態や発達段階に応じて身に付けさせる指導が必要である。

小学生に学校の魅力を伝えるキャッチフレーズを考えよう

～質問をすることで、相手の伝えたいことに迫ろう～

一年組 番氏名 ()

キャッチフレーズ

明るく楽しい〇〇中学校

初めに考えた学校の魅力

私は来年入学してくる小学六年生に伝えたい〇〇中学校の魅力として、部活動のことを考えました。私はバスケットボール部に入っています。いつも元気に先輩や友達にあいさつをします。元気にあいさつすると、その後もみんなで明るく活動することができます。練習は大変ですが、とても楽しいです。練習が終わってからも友達と笑顔が絶えません。

小学生に学校の魅力を伝えるキャッチフレーズを考えよう

～質問をすることで、相手の伝えたいことに迫ろう～

一年組 番氏名 ()

キャッチフレーズ

いつでも、だれもが気持ちよい！〇〇中学校

友達のことを聞いて、改めて学校の魅力を考えよう

私はいつも明るく元気に活動することができる部活動を学校の魅力として考えました。

友達のことを聞いて、「明るく元気」という様子は部活動だけでなく、学校の他の場面でも言えると思いました。友達は朝の挨拶の場を挙げて、〇〇中学校はとても明るく、気持ちよく過ごせる学校だと説明していました。私が初めに考えていた「明るく元気」ということも含めて「気持ちよく過ごせる学校」が学校の魅力だと改めて感じました。

＜指導事例2：第2学年＞ 他者の考えと自分の考えを比較・検討し、自分の考えを広げる力を育成する指導

1 単元名 海外の中学生に日本の魅力を紹介しよう
～異なる立場や考えを尊重して話し合おう～

2 単元の目標

海外の中学生に日本のよさを紹介するとしたら、どのようなことを紹介するとよいか考え、相手の立場や考えを尊重しながらパネルディスカッションを行い、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 課題に対して自分の考えをもち、話し合いによって得た他者の考えを参考にして自分の考えを広げようとしている。

【話す能力・聞く能力】

- ・ 話し合いを通じて、別の立場や視点があることを知り、互いの発言を比較・検討することで、自分の考えを広げている。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・ 相手や目的に応じ、話の形態や展開に違いがあることを理解し、適切に話している。

4 研究の視点

(1) 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

本単元ではパネルディスカッションを通して、海外の中学生に伝えるのにふさわしい日本の魅力について考えを深めさせる。生徒は様々な立場から日本の魅力を発表するため、複数のグループの考えを把握する必要がある。そのため、各グループからの提案の後に各グループの考えを整理し、質問を考える時間を設定した。考えを整理する手だてとして、主張や主張を支える根拠をワークシートに記入させるようにした。

(2) 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

「例えば〇〇ということについてはどのように思いますか」、「〇〇は海外の中学生にとって～ではないでしょうか」、「〇〇という話がありましたが、皆さんはどう思いますか」などの「発言カード」を活用して、聞き手の役割を意識しながら話し合いに参加できるようにする。それにより、どのような発言をどのようなタイミングで行えば目的や意図に応じて話し合いが進むのかを学ぶことができると考えた。

5 主な学習活動

(1) 単元の指導計画（全4時間）

時	○学習活動	・指導上の留意点
第1時	○テーマ「海外の中学生に日本のよさを紹介するとしたら何を取り上げるのがよいか。」について、自分の考えを書く。 ○パネルディスカッションの方法を学ぶ。	・ディベートとパネルディスカッションの違いを理解し、テーマに関する自分の考えを広げるための話し合いの一つであることを理解させる。

第2時	○自分の立場の考えを支える根拠について、異なる立場の意見や質問を想定しながらフリップにまとめる。	・立場に沿った根拠を考え、他の立場への的確な質問、相手からの質問を想定することで自分の考えの根拠を固めさせる。
第3時	○パネルディスカッションを行い、多様な立場の意見やその根拠を聞き、自分の考えを広げる。	・メモを取りながら聞くことで、次時の振り返りに生かさせる。
第4時	○前時のパネルディスカッションを振り返り、多様な考えを比較・検討し、自分の考えを広げる。	・話し合いで得た他者の考えと自分の考えとを比較・検討させ、多様な意見を取り入れて自分の考えを広げさせる。

(2) 指導の展開

第1時

(ア) 本時の目標

- ・海外の中学生に向けて日本のどのようなよさを紹介するとよいか、根拠を明らかにして自分の考えをまとめる。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準 [評価方法]
○海外の中学生に向けて日本のよさを伝えるとしたら、どのようなことを取り上げるとよいか考え、パネルディスカッションを通して互いの考えを比較・検討するという学習の流れを知る。	・海外の中学生に向けて日本を紹介するとしたら何を取り上げるのがよいか話し合いにより考えを深めていくという学習活動を理解させ、単元に見通しをもたせる。	
○パネルディスカッションの方法を確認する。	・ラウンドテーブル型パネルディスカッションに基づいた司会を立てないパネルディスカッションを行う上で、相手を尊重することが大切であることを理解させる。	
○テーマに沿った自分の考えを書く。	・テーマ「海外の中学生に日本を紹介するとしたら何を取り上げるのがよいか。」について、自分の考えを書かせる。	○紹介したい日本の文化等を考えている。 [観察・ワークシート]
○グループに分かれ、自分たちの考えに沿った立場を決める。	・考えが似ている者同士でグループをつくらせ、自分たちの考えに沿った立場を考えさせる。	○自分たちの考えに沿った立場を考えている。 [ワークシート]

第2時

(ア) 本時の目標

- ・ グループの中で立場を支える根拠について互いの考えを発表し合い、パネルディスカッションで示すグループの考えをまとめる。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準 [評価方法]
<p>○本時のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○根拠について話し合う。</p> <p>○相手の考えを確かめたり、詳しく聞いたりするための質問を考える。</p> <p>○他の立場への質問をグループで考える。</p> <p>○自分たちのグループに対する質問を予想し、回答を検討する。</p>	<p>・ 自分のグループの考えを支える根拠について、異なる立場の意見や質問を想定しながら話し合うことを示し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・ 立場に沿った根拠を一人一つずつ挙げフリップに書き、掲示させる。</p> <p>・ 「つまり～ですか。」、「例えばどのような～ですか。」などの質問を確認する。</p> <p>・ 他のグループの根拠が書かれたフリップを見て、質問を考えさせる。</p> <p>・ 第4時の学習の振り返りにおいて、他のグループの意見を踏まえて自分の考えを書くことを確認する。</p> <p>・ 相手からの質問を想定して、回答を考えさせる。</p>	<p>○立場に沿った根拠を整理し、まとめている。 [フリップ]</p> <p>○他の立場への的確な質問を考えている。 [観察、ワークシート]</p> <p>○質問を想定して回答を考えている。 [観察、ワークシート]</p>

第3時

(ア) 本時の目標

- ・ パネルディスカッションを通し、海外の中学生に紹介する日本のよさについての様々な考えを、自分の考えと比較しながら聞く。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準 [評価方法]
<p>○本時のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○海外の中学生に紹介したい日本の文化等についての様々な考えを聞き、根拠等をメモしながら、パネルディスカッションを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">相手の意図を的確に捉えるための学習活動</div> <p>○「発言カード」を活用して、聞き手の役割を意識しながら話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">聞き手としての立場や役割を意識する学習活動</div> <p>○パネルディスカッションで聞いたり話し合ったりしたことを基に、他のグループの考えと自分の考えとの共通点や相違点をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な立場の根拠を聞き、自分の考えを広げることが理解させ、そのためにメモを取ることが重要であることを確認する。 ・ 基本的な発表の手順を示し、質問の適切な機会を意識させながら、司会を立てずにパネルディスカッションに取り組みさせる。 ・ パネルディスカッションは以下の手順で行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①各グループからの提案 ②作戦会議 ③質問・意見交換 ④作戦会議 ⑤質問・意見交換 ⑥作戦会議 ⑦最終提案 ・ 発言に際しては、相手の立場や考えを尊重し、場に応じた言葉遣いをするよう指示する。 ・ 他のグループの考えと自分の考えとの共通点や相違点に着目させワークシートにまとめさせる。 	<p>○他のグループの意見を、メモを取りながら、聞いている。 [観察、ワークシート]</p> <p>○相手の立場を尊重し、場に応じた言葉遣いをしている。</p> <p>○他のグループの考えと自分の考えを比較・検討している。 [ワークシート]</p>

第4時

(ア) 本時の目標

- ・ パネルディスカッションで聞いたことを基に自分の考えをまとめ、海外の中学生に紹介する日本のよさについて考えを広げている。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準 [評価方法]
<p>○本時の目標を確認する。</p> <p>○パネルディスカッションの振り返りを行う。</p> <p>○自分の考えに影響を与えた意見について発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>聞き手としての立場や役割を意識する学習活動</p> </div> <p>○海外の中学生に向けて日本のよさを紹介するとしたら何を取り上げるのがよいか、改めて自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のパネルディスカッションを振り返り、多様な考えを自分の考えと比較・検討し、自分の考えを広げることを確認する。 ・ 前時のパネルディスカッションを振り返らせ、それぞれの立場の考えや質問についてワークシートを見ながら確認する。 ・ 自分の考えが変わるきっかけとなったり、納得したりした意見と理由を発表させる。 ・ 自分の考えに影響を与えた意見と自分の考えとの共通点や相違点を踏まえて自分の考えを書かせる。 	<p>○他者の考えを理解し、自分の考えが変わるきっかけとなった意見と、理由を述べている。</p> <p>[観察、ワークシート]</p> <p>【話す・聞く能力】</p> <p>○話合いで得た他者の考えと自分の考えを比較・検討し、多様な意見を取り入れて、最終的な自分の考えを書いている。</p> <p>[ワークシート]</p> <p>【話す・聞く能力】</p>

6 検証授業の成果と課題

(1) 成果

ア 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

自分の立場の考えを支える根拠については、フリップに書き、提示することで、意見を視覚化し、分かりやすくした。そのため、話合いに集中することができ、他者の意見を的確に聞き取ることができた。また、既習事項である「メモの取り方」を確認し、実際に活用させたことで、自分たちの考えと他者の考えとの共通点や相違点を整理させた。振り返りの際にもこのフリップとメモを使用することで、話合いの要点を押さえることができた。

イ 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

パネルディスカッションにおいて、相手の意図を聞き出す聞き手としての立場や役割を意識させるために「発言カード」を使用した。生徒は「発言カード」を使用することで、相手の考えをより深く理解することができていた。

また、パネルディスカッションを振り返り、納得することができた意見や新たな発見があった意見について話し合ったことで、自分と他者の発言内容について客観的に捉え直すことができた。納得することができた意見や新たな発見につながった意見を取り入れることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

(2) 課題

ア 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

パネルに立場や根拠を示すことで、意見を視覚化し、相手の意図を捉えやすくした。パネルには自分たちの立場を簡潔に記すので、相手の意図を的確に捉えることが容易になる。しかし、日常生活においては、相手の話から相手の意図を捉えなければいけない。そのためには、要約する力、事実と意見を聞き取る力について、継続的に指導していく必要がある。

イ 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

今回の学習では、既習事項である「メモの取り方」を取り上げ、話し合いを振り返らせるために必要であることを確認し、メモを取る際のワークシートには、「提案（立論）」「質問・意見交換（質疑応答）」「最終提案」をそれぞれ羅列させた。生徒は工夫してメモを取っていたが、「要点を聞き取ること」が難しい場合も見られた。フローシートの形式にするなどして更に記入しやすいワークシートを考えていきたい。

<p>海外の中学生に日本の魅力を紹介しよう ～異なる立場や考えを尊重して話し合おう～</p>
<p>氏名（ ）</p>
<p>私は日本の季節を紹介するのがいいと思っていました。</p>
<p>なぜなら、日本の季節ごとの自然の色の変化がとてもきれいだからです。春の緑、夏の海や空の青さ、秋の紅葉の赤や黄色、冬の雪景色の白等どれもとても鮮やかで美しいです。</p>
<p>しかし、ディスカッションを通して、「人の温かさ」を紹介することもいいと思いました。日本の季節も人の温かさもどちらも日本の文化に大きく関係しているものであると思います。と同時に、季節や風土のよさも人の温かさがあってこそ深く感じられるのではないかと、と思いました。</p>
<p>そこで、「季節に応じたおもてなしの心」を紹介したらよいのではないかと思います。季節に合わせた和菓子などを例にして、四季のよさとそれに応じた人の温かさを紹介できたらよいと考えます。</p>

＜指導事例 3：第 3 学年＞ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、自分のものの見方や考え方を深める力を育成する指導

1 単元名 社会の課題について討論しよう～目的や意図に応じて話し合おう～

2 単元の目標

話し合いの進行の仕方を工夫して、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合う。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 単元の目標を理解し、身に付けるべき力を着実に身に付けるために、主体的に学習に取り組んでいる。

【話す能力・聞く能力】

- ・ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫したり、互いの立場や考えを尊重したりして、課題の解決に向けて互いの考えを生かしている。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・ 敬語の適切な使い方について理解し、適切に使っている。

4 研究の視点

(1) 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

本単元では社会的な課題について討論を行う。討論では相手の意見を踏まえて意見を述べたり、質問したりすることが求められる。そこで、相手がどのような立場であるのか、またその理由はどのようなことであるのかに気を付けて聞くように意識させることが大切であると考えた。そして、相手の考えの中で分からない点には、質問をすることで積極的に理解するよう意識させた。

(2) 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

討論においては、次々に意見が発表されるため、自分の発言を含め客観的に討論の展開を把握することが聞き手としての立場や役割を意識させるために大切であると考えた。そこで、討論グループと記録グループをつくり、討論でのやり取りを記録させることにした。そして、討論後に、自分の発言は討論の展開を効果的に進めることにつながっていたか、新たな展開につながったり、様々な意見をまとめたりする発言であったかなどを振り返らせた。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全 3 時間）

	○学習活動	・指導上の留意点
第 1 時	○討論のテーマとなる社会の課題を見付ける。 ○討論を通して考えを深めるためには、どのような点に気を付ければよいか考える。	・相手の話を聞いてどのような意見であるかを判断すること、話し合いの過程で話題や方向性を客観的に判断すること、先の展開を考えること等が大切であることに気付かせる。 ・他の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理して考えることが大

		切であることを確認する。
第2時	○効果的に討論が展開するように考えながら討論を行う。 ○討論が効果的に展開していたか、記録を基に話し合う。	・討論するグループとその記録を取るグループに分ける。 ・討論が効果的に展開していたか、記録を基に考えさせる。
第3時	○前時の学習を踏まえ、相手の立場とその理由を意識して討論を行う。 ○討論を通して深まった自分の考えをまとめる。	・他の考えと自分の考えとの共通点や相違点を考えながら討論することを意識させる。 ・互いの意見を尊重させたり、他の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理させたりすることで、考えを深めさせ文章にまとめさせる。

(2) 指導の展開例

第1時

(ア) 本時の目標

- ・ 本、雑誌、テレビ等の情報を基にどのような社会的な課題があるかを考え、討論において自分の考えを深めるために気を付けることについて理解を深める。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
○社会的な問題について自分の考えをもち、討論を通して考えを深め意見を文章にまとめるといふ単元の目標を知り、どのような社会的な課題があるかを考える。 ○討論において、どのような点に気を付けると考えを深めていくことができるか、話し合う。	・最終的な意見をまとめるまでの活動の流れを説明し、単元の見通しをもたせる。 ・本、雑誌、テレビ等の情報を基に、どのような社会的な課題があるかに気付かせる。 ・相手の話を聞いてどのような意見であるかを判断すること、話合いの過程で課題や方向性を客観的に判断すること、先の展開を考えること等が大切であることを気付かせる。 ・他の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理して考えることが大切であることを確認する。 ・相手の意見を尊重しようとする態度が大切であることを確認する。	○本、雑誌、テレビ等の情報を基にどのような社会的な課題があるかを考えている。 〔観察・ワークシート〕 ○討論において考えを深めるために大切なことを考えている。 〔観察・ワークシート〕

第2時

(ア) 本時の目標

- ・ 討論の過程で進み具合を客観的に把握したり、それまでの討論を振り返ってこれからの展開を考えたりするために、発言を工夫する。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<p>○本時の目標を確認する。</p> <p>○「自転車の免許は必要であるか」について考えを書く。</p> <p>○効果的に討論が展開するように考えて討論を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>相手の意図を的確に捉えるための学習活動</p> </div> <p>○討論するグループと記録をとるグループを入れ替えて、再度討論を行う。</p> <p>○討論後の自分の考えの変化をまとめる。</p> <p>○討論が効果的に展開してい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞いてどのような意見であるかを判断すること、話合いの過程で話題や方向性を客観的に判断すること、先の展開を考えることを意識することが大切であることを確認する。 ・自転車の事故件数や事例についての資料、自動車の免許が発行されるまでの資料等を見せ、考えられるようにする。 ・討論するグループと記録を取るグループに分ける。 ・進行の仕方を意識させるために司会を立てずに討論を行わせる。全員が発言できるように「〇〇さんはどう思いますか。」など意図的に意見を求めることが大切であることを確認する。 ・記録グループには、話合いが効果的に展開することにつながった発言を考えながら発言の要点を記録すること、討論の過程を振り返る際に記録を使用することを伝える。 ・討論後に自分の考えがどのように変化したのかが分かるように、また、変わらなかった場合はなぜ変わらなかったのかをまとめさせる。 ・自分たちの討論を振り返らせ、 	<p>○討論が効果的に展開するように考えながら発言している。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p> <p>○討論が効果的に展開</p>

<p>たか、記録を基に討論するグループと記録をとるグループのペアで話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>聞き手としての立場や役割を意識する学習活動</p> </div>	<p>新たな展開となるきっかけとなった発言や意見をまとめることにつながった発言を探させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な発言をいくつか挙げ、それらの発言のもつ効果について考えさせる。 	<p>するために、話合いの話題や方向性を客観的に把握したり、討論の経緯を振り返ってこれからの展開を考えたりすることの大切さに気付いている。</p> <p>[ワークシート]</p>
--	--	---

第3時

(ア) 本時の目標

- ・ 話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫したり、互いの考えを尊重したりして、課題の解決に向けて互いの考えを生かす。

(イ) 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<p>○本時の目標を確認する。</p> <p>○「レジ袋は有料であるべきか無料であるべきか」について自分の考えを書く。</p> <p>○相手の立場と理由を意識して討論を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>相手の意図を的確に捉えるための学習活動</p> </div> <p>○討論するグループと記録をとるグループを入れ替えて、再度討論を行う。</p> <p>○討論後の自分の考えの変化をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えを尊重したり、他の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理したりして、考えを深めることが大切であることを確認する。 ・考えがまとまらない生徒には一年間に使用されるレジ袋の量やレジ袋の値段等の資料を見せ、考えさせる。 ・他の考えと自分の考えとの共通点や相違点を考えながら討論することを意識させる。 ・記録グループには、話合いが効果的に展開することにつながった発言を考えながら発言の要点を記録すること、討論の過程を振り返る際に記録を使用することを伝える。 ・少数意見のよい点に着目させたり、他の考えと自分の考えとの共通点や相違点を整理させたりすることで、考えを深めさせ文章にまとめさせる。 	<p>○課題の解決に向けて互いの考えを生かすために、相手の立場や考えを尊重し、討論の進行の仕方を工夫している。</p> <p>[観察]</p> <p>○互いの立場を尊重し、他の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理して考えを深めている。</p> <p>[ワークシート]</p>

6 検証授業の成果と課題

(1) 成果

ア 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

「〇〇について話しませんか」や「みなさんの意見をまとめると」などの進行の仕方に関わる発言や、「私も今の意見と同様で」や「それはつまり〇〇ということだと思っただけですが」などの互いの考えを尊重するような発言を生徒に意識させたことで、自分が発言するだけでなく、積極的に質問し、他の立場の意見への理解を深めることができた。

イ 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

討論の中で、それぞれの生徒の発言を記録用紙に残させた。記録をとったことで、誰がどのタイミングでどのような発言をしたのかが分かり、その発言により討論がどのように展開したかということも振り返ることができた。自分自身で振り返ることも大切だが、他者の視点から捉えさせることで、客観的な自己評価につなげることができた。

(2) 課題

ア 相手の意図を的確に捉える力を育むための工夫

相手の考えについて、何が理解できて何が理解できないのかを整理できず、より詳しく聞くための質問を考えられない生徒がいた。相手の考えを整理してどの部分についてより詳しく知る必要があるかを理解することが必要になる。討論の間に考えを整理する時間等を設けることで、全ての生徒が相手の意図を理解するための質問を考えることができるようになると考える。

イ 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

話合いの展開に付いていけず、振り返りを行うための十分な記録がとれない記録グループも見られた。発言の内容を要約したり、話合いの方向性を捉えて整理したりする力を継続的に指導していくことが必要である。

社会の課題について討論しよう

～目的や意図に応じて話し合おう～

テーマ

レジ袋は有料であるべきか無料であるべきか

討論前の考え

〈理由〉

レジ袋は無料であるべきだと思います。なぜ

なら、レジ袋にお金が掛かるとなると、それが

原因で買い物控える人もいると思うからで

す。そうすると、結局、お店としては、損をし

ているのではないのでしょうか。より安く買物

ができる方がお客さんはうれしいと思います。

〈有料派〉

●日本全国で考えると、大量のレジ袋が使用されている。それをお店が負担している。

●多くの資源が使われている。地球温暖化にも影響している。●無料だとポイ捨てる人が多くなると思う。

〈無料派〉

●たとえ3円でも安く買物できた方が、たくさんの方が買物をすると思う。●その3円が無くて、持って帰るのが大変なときがあるかもしれない。●消費税もあるし、商品以外にお金が掛かり過ぎる。

生徒のワークシートより抜粋

討論後の考え

初めは、レジ袋は無料であるべきだと思っていました。しかし、大量のレジ袋が使用されていることや、環境への影響があることを考えると、消費者がレジ袋に責任をもち、お金を負担するべきだと思いました。ただ、消費税も払わなければいけないので、少しでも安くできるといいと思います。

討論を振り返って

自分と違った意見やその理由を聞くことで、自分の考えが広がったり、違う見方ができるようになったりすることが分かりました。

生徒のワークシートより抜粋

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 相手の意図を的確に捉えさせる学習活動

話し合いにおける「聞き手」としての発言の仕方に関する知識・技能を身に付けることができた。質問には相手の考えを確かめる質問と考えを詳しく知るための質問等がある。これらの質問を話し合いの中で意識的に使わせることで、相手と自分の考えの共通点と相違点を明らかにし、自分と他者の考えを比較し検討することができた。

また、「発言カード」を話し合いの中で効果的に用いたことで、相手の考えを引き出し、討論を課題解決に向けて進めていくことができ、互いに質問し、他者の立場や考えを尊重しながら話し合いができるようになり、討論を通して自分の考えを広げさせることができた。

(2) 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

討論の中で出た発言を記録用紙に時系列で残すことにより、誰がどのタイミングでどのような発言をしたのかが分かり、話し合いの展開を振り返ることができた。

発言を客観的に振り返らせることで、客観的に発言の効果を考えさせることができた。話し合いの中での発言がもつ効果について、発言を可視化したり、記録に残したりして考えさせることができた。

また、自分の考えをワークシートに記録し、話し合いの前と後での考えの変化を比較することで、相手から意図的に情報を引き出すことができたか、自分の考えが変容したかを実感させることができた。

2 研究の課題

(1) 相手の意図を的確に捉えさせる学習活動

人との交流を通して主体的に学ぶ「聞き手」を育成するために、相手の考えを正確に理解することが大切である。そのためには、聞き取ったことを要約すること、事実と意見を聞き取ること、そして、相手がどのような考えであるか整理することを継続的に今後も指導していかなければならない。

また、分からないことを積極的に質問することで相手の考えを正確に理解することが可能となる。質問したことで、自分の知りたいことが明らかになったかどうかを振り返ることを今後も経験させていくことが大切である。

(2) 聞き手としての立場や役割を意識して話し合える力を育むための工夫

記録を基に話し合いを振り返らせることで、自分の話し方を客観的に考えられるようにした。しかし、全ての内容を記録に残すことはできない。また、記録をとる生徒によっても記録する発言が異なっている。話の方向性を捉えて整理することを今後も意識させて指導を続けることが大切である。

平成 29 年度 教育研究員名簿

中学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
台 東 区 立 浅 草 中 学 校	主任教諭	田中 まゆ子
目 黒 区 立 大 鳥 中 学 校	主任教諭	岡 庭 知 規
渋谷区立渋谷本町学園中学校	主任教諭	◎ 土 屋 善 範
杉 並 区 立 大 宮 中 学 校	主任教諭	丸 山 晶 子
足 立 区 立 栗 島 中 学 校	教 諭	久 保 谷 創
町 田 市 立 小 山 中 学 校	主任教諭	柳 由 妃
東 大 和 市 立 第 五 中 学 校	主任教諭	結 城 圭 絵

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 古重 道人

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

中学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社